

令和5年度第2回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会 議事録

日時・場所 : 令和5年8月7日(月) 13時30分～15時00分 教授会室
出席者(対面) : 井手理事長、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、伊藤委員、北川委員、山崎委員
出席者(オンライン) : 石井委員、小倉委員、塚本委員
欠席者 : なし
事務局 : 澤野事務局次長、高木財務課長、寺村経営企画課長、川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、堀江高等専門学校開設準備室長、経営企画課 加藤主幹、西村主任主事、岡主事
伊丹人間看護学研究科長(審議事項2説明)、古株人間看護学研究院長(審議事項2説明)

【審議事項】

(1) 令和6年度予算編成方針(案)について

高木財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 人間看護学研究科博士後期課程の設置に向けて

伊丹人間看護学研究科長および古株人間看護学研究院長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり設置に向けた準備を開始することが承認された。

[主な質疑・意見等]

- ・博士課程の定員2～3名で、現在の修士課程の修了者が1学年で8名程度ということだが、修士課程から博士課程へ進学する需要はあるのか。今まで博士課程が無かった分、進学を希望する者が多く暫くは定員を充足するようと思われるが、今後の見通しはどうか。
→ 本学のこれまでの修士課程修了者で追跡ができていた50名のうち、他大学で博士課程を修了または現在修学中の者が9名いる。また、本学講師16名への聞き取りでは、うち10名が博士課程を修了、現在在学中または進学希望の者で、中には本学に博士課程が設置されれば進学したいという者もいた。これらを勘案すると毎年2～3名の入学生は見込めると考えている。
- ・看護系の大学は教員でも博士の学位を持っておられない方がいるのか。
→ 看護系は実務を重視するので、修士の学位を持っていない教員も多い。しかし、看護学分野も大学化が進んでおり、これから修士を取る方が増えていくといったところで、博士課程を修了した教員が多くなるにはもう少し時間がかかる。
- ・これからは学位を持っていなければ大学院での指導が出来なくなると思うの

で、博士課程は貴重な存在になると思う。

- ・現在の人間看護学研究科の修士課程、また、他研究科の博士課程の定員充足状況はどうか。手続きを進める中で文部科学省からいろいろと言われるところなので確認したい。
 - 人間看護学研究科の修士課程は安定的に 100%を超えている。ただし、工学研究科や人間文化研究科の博士課程では、これまでに定員を満たしていない年もあった。人間看護学研究科の博士課程の国への認可手続きでは、定員を充足していけるかどうかを最も厳しく評価されると考えており、県内の関連する医療機関へのPR等も含め頑張って取り組んでまいりたい。
- ・滋賀県は高齢化が本格化しており、高齢者が元気に働く社会を創造していくことが重要である。なかなか表に出ない分野だと思うが、大切なことなので是非とも充実させていっていただきたい。

(3) 令和5年度補正予算(案)について

高木財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

[主な質疑・意見等]

- ・人間看護学研究科博士課程の検討業務委託の契約先は決まっているのか。
 - まだ決まっていない。規程等に基づき業者選定等の手続きを行う。

(4) 第4期中期目標(案)に対する大学の意見について

寺村経営企画課長より、資料に基づき説明があり、審議を行った。審議の結果、地方独立行政法人法に基づく中期目標(案)に対する大学への意見照会があった際には、意見なしとして回答することが了承された。

[主な質疑・意見等]

- ・「持続可能な社会づくり」というキーワードが非常に多く出てくるが、本学は「人が育つ大学」を掲げているので、人材の育成を強調してはどうか。また、多様化も重要だが、専門的な人材、ここでしか育たない人材は必要だと思うので、多様性も加味した上で専門性を持った人材を育成することを強調していただきたい。
 - 中期目標はどうしても抽象的な書き方になる部分がある。法人としてこの中期目標を受けて策定する中期計画の中で、その辺りを強調できるようにしてまいりたい。
- ・地域連携に関する目標としてOB・OGとの連携とあるが、湖南地域ではあまり県大生と関わることがない。どうしても北の方のイメージがある。近江楽座の活動やフィールドワークが県域全体や県外を対象に関わる等、拡がりが見えると、いい循環を地域で起こしているように見えて良いと思う。
- ・教養教育の充実について県立大学としてどのような方向で考えているのか。
 - 基本的には中期計画の検討の中で具体的になっていく。本学は人間学と

して教養教育を実施しているので、今の時代に即したものになるよう内容を充実してまいりたい。

【報告事項】

(1) 高等専門学校開設に向けた検討状況について

堀江高等専門学校開設準備室長より、資料に基づき説明があった。

[主な質疑・意見等]

- ・地域に開かれた高専ということであれば、図書・交流拠点施設が正門から入ってすぐの場所にあった方が良いのではないか。
 - 基本的には学校専用の部分と様々な方が利用する図書・交流拠点施設とは分けて配置したいと考えている。図書・交流拠点施設へは正門とは別の入口を用意し、駐輪場も配置する等、アクセスしやすいように一定考慮したいと考えている。

【資料配布】

(1) 令和4年度監事監査結果報告について

[主な質疑・意見等]

- ・監査の観点に「管理（マネジメント）は適切か」とあるが、具体的な項目や基準は定まっているのか。
 - 法人全体のマネジメントや教学マネジメント等について、監査の大きな視点の一つとしたもので、具体的に項目が定まっているものではない。
- ・不適正事案が発生しているので、未然に防ぐためのマネジメントが適切に行われているかという観点で監査を実施いただくことを強調しておきたい。

【その他】

(1) 経営協議会日程について

寺村経営企画課長より、中期計画（案）の審議や高専の開設準備に関連する補正予算の関係で、10月頃に臨時の経営協議会を開催する必要があることについて説明があり、後日、日程調整を行うこととされた。

(2) その他

[主な質疑・意見等]

- ・監事監査結果報告の中で、環境科学部の4学科の出願者が募集人員を下回る事態となったとあった。学生の確保に向けた取組として、在学生や卒業生に本学の何が魅力であるのかを聞いてみてはどうか。今後、大学をPRする際にも活用できると思う。
 - 在学生・卒業生の意見を聞いてみるのは検討したいと思う。

環境科学部の出願者が募集人員を下回ったことについては、一昨年度までは一定数の推薦をいただいていた複数の高校が推薦者無しという事態となったこと、それが環境科学部に限定されていたことから、何らかの理由がなかったか調査している。難しいが高校訪問等の際に理由を聞けないかと考えている。

- 高校訪問はどのような方が、どれくらいの頻度でされているのか。
 - 事務局からは県内高校を一通り訪問させていただいている。その他に、各学部の取組みとして過去5年から10年によく受験していただいている高校を対象に担当教員が訪問している。

環境科学部についてはこういう事態になったので、7～8月の高校訪問の取組みを強化し、進路指導の教員への聞き取りをしていく予定である。
- 7～8月の高校訪問である程度の聞き取りを行い、原因分析をしなければ今年度の改善に繋がれないと思う。聞き取りはいつまでに行うのか。
 - 8月後半に高校で生徒と保護者との三者面談があり、高校の中で推薦入学の志望状況が集約されるので、それまでに聞き取りを実施する。

工学部でも過去に同様の事態があり聞き取りを行ったが、偶然その年だけ志望者が無かった等、原因が特定できなかつた。難しいと思うが原因分析と改善に努めたい。
- この問題は県立大学が推薦入試をどれくらい重視しているのかにもよると思う。大学によっては推薦を重視していないところもある。また、国公立大学の推薦入試は私立大学とは異なり合格を確約できないので、保護者に選んでもらえない状況もある。そういった事情で年によって募集人員を満たさない時もあるというのが一般的だと思うので、監事にもご理解をいただければと思う。

以上